

第2章 | 本市における都市づくりの考え方

- 1 全体構想で掲げる都市づくりの考え方
- 2 SDGs（持続可能な開発目標）への貢献
- 3 都市づくりにおける各地区の位置付けと関係性

第2章 本市における都市づくりの考え方

1 全体構想で掲げる都市づくりの考え方

(1) 都市づくりの目標像

**「選ばれる都市へ挑戦し続ける
“新たな杜の都”」**

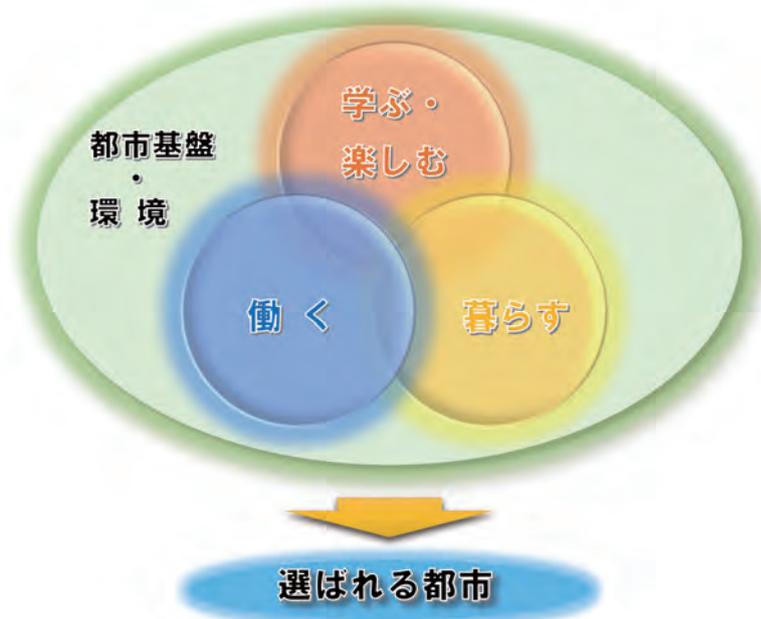
～自然環境と都市機能が調和した
多様な活動を支え・生み出す持続可能な都市づくり～

①目標像の考え方

仙台が、市民をはじめ国内外の人に、多様な活動の場所として選ばれる持続可能な都市であり続けるために、緑に包まれた美しくゆとりある環境と高次な都市機能が集積した利便性、防災環境都市*としてのブランド力など、これまで培われてきた都市個性を生かし、さらに高めるとともに、挑戦を重ね、新たな魅力や活力を生み出す力強さと、様々な変化に対応するしなやかさによって、その価値を高め続ける都市、“新たな杜の都”を目指します。

②選ばれる都市の実現に向けて

市街地が量的には一定程度充足してきている本市では、これまで以上に市街地を「つかう」という視点を持ち、魅力や活力あふれる都市活動が展開される持続可能で多様性に富んだ都市づくりにも積極的に取り組みながら、各々の活動の舞台となる働く場所、学ぶ・楽しむ場所、暮らす場所としての質を高め、相乗効果を生み出すことにより、選ばれる都市の実現を目指します。



(2) 都市づくりの基本方針

都市づくりの目標像の実現に向けた基本的な考え方として、「基本方針1：魅力・活力のある都心の再構築」、「基本方針2：都市機能の集約と地域の特色を生かしたまちづくり」、「基本方針3：質の高い公共交通を中心とした交通体系の充実」、「基本方針4：杜の都の継承と安全・安心な都市環境の充実」、「基本方針5：魅力を生み出す協働まちづくりの推進」の5つを都市づくりの基本方針として定めています。

■全体構想で掲げる5つの都市づくりの基本方針

基本方針1：魅力・活力のある都心の再構築

- 国際競争力を有し、東北と世界を結びつける都市として成長するため、各エリアの特色強化による都心部の回遊性の向上、近未来技術の活用、イノベーションやトライアルの機会、居心地のよい憩いや交流の場の創出等を通して、躍動する都心としての魅力・活力の向上に資する再構築を図ります。

基本方針2：都市機能の集約と地域の特色を生かしたまちづくり

- 引き続き、持続可能で防災・減災にも資する、機能的・効率的な市街地を形成するため、地域特性に応じた多様な都市機能の適正な配置を図ります。
- 周辺環境との調和に配慮しながら、地域の特性を踏まえた都市機能の誘導や地域の活性化に資する、特色あるまちづくりの促進を図ります。

基本方針3：質の高い公共交通を中心とした交通体系の充実

- 過度に自家用車に依存しない、質の高い公共交通を中心とした交通体系の充実に取り組むとともに、広域的な交流・連携や、日常生活における移動を支える交通施策を推進します。

基本方針4：杜の都の継承と安全・安心な都市環境の充実

- 魅力ある「杜の都」を後世においても継承し、自然環境を生かした美しく快適な都市空間の形成を図ります。
- 生涯を通じて健やかに安全・安心に暮らせるまちとして、市街地の浸水対策等、災害に強い都市環境の充実を図ります。

基本方針5：魅力を生み出す協働まちづくりの推進

- 多様な価値観を尊重し合い、地域課題を解決して新たな魅力を生み出すため、市民・事業者・行政等の多様な主体の協働によるまちづくりの一層の推進を図ります。

(3) 都市構造と土地利用の考え方

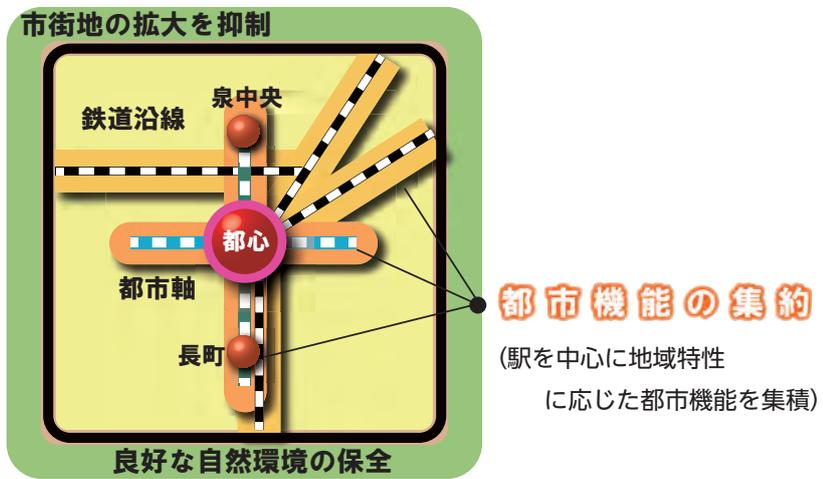
本市が取り組んできた鉄道駅を中心に地域特性に応じた都市機能の集積を図る機能集約型の都市づくりを今後も引き続き推進していきます。

東北地方を支える多様な都市機能が集積している都心、都市圏北部・南部の活動を支える広域拠点である泉中央地区や長町地区、地下鉄沿線の都市軸、鉄道沿線に商業・業務、福祉・子育て、医療などの都市機能の集積および高度化を進め、密度を高めていきます。

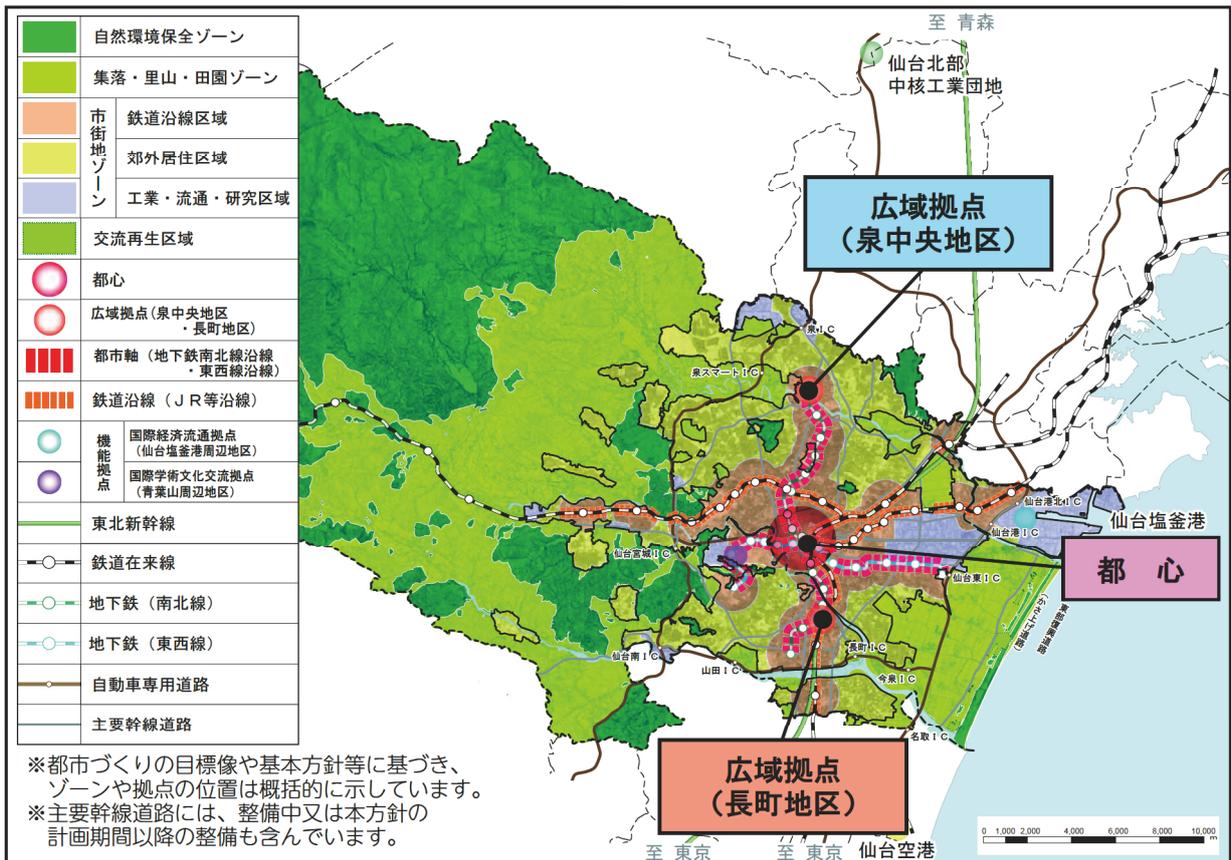
鉄道を中心とした公共交通による都市機能へのアクセス性向上を図り、環境負荷の少ない効率的な都市経営や防災性にも優れた機能集約型の都市づくりに取り組み、豊かな緑との調和や防災に配慮された、魅力的で暮らしやすく、安全・安心な空間が形成された持続可能な都市構造の実現を目指すこととしています。

第2章

■基本とする都市構造



■土地利用方針図



2 SDGs（持続可能な開発目標）への貢献

SDGs（Sustainable Development Goals）とは、2015（平成27）年の国連サミットで採択された2030年までの持続可能な開発目標です。「誰一人取り残さない」を理念に、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴール、169のターゲットを定めています。

SDGsの17のゴールのうち、7つのゴール（6、7、8、9、11、13、15）が特に都市計画に関連することから、同じ目的意識を持って本地域別構想を推進することにより、SDGsの達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



■ SDGsと都市計画との具体的な関係性

目標6 (水・衛生)	目標7 (エネルギー)	目標8 (経済成長と雇用)	目標9 (インフラ、産業化、イノベーション)
上下水道施設整備、水辺の生態系の保全、統合水資源管理など	再生可能エネルギー [*] の拡大、エネルギー効率の改善など	生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーション [*] の支援など	強靱なインフラ構築、持続可能性の向上、イノベーションの推進など
目標11 (持続可能な都市)	目標13 (気候変動)	目標15 (陸上資源)	
居住・交通・緑地・公共スペースの計画・管理、防災への取り組みなど	気候関連災害や自然災害に対する強靱性及び適応力の強化など	森林保全、生物多様性を含み山地生態系の保全など	

3 都市づくりにおける各地区の位置付けと関係性

(1) 都心地区と広域拠点との関係性について

都心地区と広域拠点である泉中央地区と長町地区は、本市の都市構造上、複合的な都市機能の集約や地域特性を踏まえた都市づくりを進めるべき地区であることから、各地区間での適正な役割分担と連携・補完を図る必要があります。

都心地区は、広域的な交流を支える東北の玄関口であり、本市のみならず宮城県、東北地方を牽引する地区として、仙台駅や行政機関、高機能オフィスなど高次な都市機能とそれらを支えるアメニティを高める商業・交流・宿泊機能を強化することにより、国際競争力を有し、世界と結びつく地区として、市民をはじめ国内外からの来訪者を受け入れることができる都市空間を目指す地区です。また、日常的な賑わいや交流のみならず、非日常を感じる特別な体験をすることができる地区です。

広域拠点である泉中央地区と長町地区は、都心地区とは違う、広域性のある商業・交流施設などから感じられる非日常と、広域拠点の利便性を生かした都市型居住による日常生活や、都市圏北部と南部それぞれの人々の日常とが交差する都市空間を目指す地区になります。

(2) 都心地区・広域拠点と他の市域との関係性について

本地域別構想で都市づくりのテーマを掲げる都心地区と広域拠点(泉中央地区・長町地区)は、本市の都市構造の中でも中心的な役割を果たす地区として、魅力的で個性のある複合的な都市機能の集積・強化を図ることとしています。

国際的な物流や学術・文化といった機能を有する機能拠点(仙台塩釜港周辺地区・青葉山周辺地区)や地下鉄沿線の都市軸など他の地域は、特定の土地利用や良好な居住環境の形成に向け、周辺環境との調和に配慮しながら、地域の特性を踏まえた都市機能を誘導し、地域の活性化に資する特色ある都市づくりを進めていきます。